

事業報告書

	事業NO	32
事業名	NRST6月	事業主体 審判員育成強化事業
日時	2021年6月19日(土)19:00~21:45	会場 Web会議
責任者	浦川 昌代	補助者 三ツ溝 勝之・相馬 博之
講師	参加数 29名	
参加者 (敬称略)	講師 菊次 勉氏・山口 茂久氏・酒井 岳大氏・相馬 博之氏	
テーマ	参加者 岩永、内田、黒澤、酒井、永尾、永谷颯、兼儀、木村、藤、松崎、山口孝、井村、岩崎、浦川、岡田 菊次、杉町、相馬、高月、永田、名切、納屋、橋本、原田雄、松田、森田、山口茂、山下、三ツ溝	
内容	<p>(進行)三ツ溝</p> <p>18:45 入室開始・出席確認[浦川氏]</p> <p>19:00~19:30 前座⑦キクさんのいらん世話シリーズ[菊次氏]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「悪い・汚い・狡い」プレーを許さないレフェリングをするためには、「判定力」や「判断力」の高度化が必要。そのための一つが「洞察力(物事の本質を見抜く力)」を使って認知すること。洞察することがものの判断力を高める。 ・高校総体レフェリング研修の検証4項目(1)“「オフサイドフラッグの見落とし(見遅れ)”と“気づかない選手交替”が意味するもの？ (2)“ベンチからの声”を受け止めてなすべきこととは？ (3)“リスタート(トランジション:動き出し)の速さ”が評価されるケースとは？ (4)“最初に起こった事象”への対応の影響はどう見えますか？ については自分なりにどう思うか、強化・アカデミー審判員は菊次氏へ提出を(宿題)。 ・NAGASAKI REFEREE CONCEPT 「走る」=動きの量と質を求めるとのこと。 NAGASAKI METHODの完璧表現！ 特性&ギャップの表現！ +プレー強度の向上！ <p>19:30~20:10 講座19「競技規則⑤ オフサイド(第11条)」[山口氏]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面写真から副審が留意すべきことを見極める(まさに先の“洞察”そのものでした) ・副審はオフサイドラインとキックの瞬間を見る。(例 2・2・1=ライン・ライン・ボール or ラインを見ながらボールを視野の片隅に置く 等) <p>20:11~20:15 休憩</p> <p>20:15~20:50 講座20「語学④ Pre-match meeting - case study」[酒井氏]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試合前の審判団打ち合わせを英語で表現することを試みたが、簡単に表現することこそが難しい。(将来、国際審判に！それだけでなく、プロの練習試合や社会人、大学でも外国人選手はいるので英語を使えるようになっておくといざという時心強い。ぼちぼちやっていきましょう)。 <p>20:50~21:20 講座21「フィジカル⑤ Acceleration①」[相馬氏] ※ Acceleration=加速すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加速時に使う筋肉 ①大臀筋 ②大腿四頭筋 ③腸腰筋 ④ハムストリングス これらの筋肉を意識して鍛えていくことが必要。 ・加速力をつけるために ①脚(頸部)の角度を大切に ②膝を前に出す ③手を一生懸命動かす脚も動く(腕を後ろに引くことが大切←肩甲骨の可動域を大きくする) <p>21:20~21:30 閉会行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所感[内田氏]毎回英語が全然できないので新鮮。これを使う機会がくるのかな。国際審判めざして。 ・総括[山口GM]研修会でのサッカー競技規則の問題で英語が出てきたことがある。いろんな学ぶ場をもつことが大切。伝えることは8割しか伝わらない。聞く方は8割しか聞き取れない。せつかくの学ぶ機会、できるだけ参加を。 ・閉会挨拶[原田副センター長]NRSTはレフェリーの会。レフェリーがいっぱい揃わないといけない。一人が一人を連れてくるよう、声を掛け合ってレフェリーの参加者を増やしていきましょう。 	
所感	<p>今回も多様な学びがありました。今さらですが、試合の中での「洞察力」の大切さを痛感しましたし、それをより磨くためには日頃から洞察することを心がけた生活が必要だと感じました。これまでなんとのほほんと生きてきたことか……。頭を使うというのがどういうことか、ちょっぴりわかった気がします。こんな大きな学びのあるNRST、参加者をぜひ増やしていきましょう！</p>	
文責	三ツ溝 勝之	2021/6/25